

へ13
2943
2
特

朝顔二編叙

権華一日自々紫花の甲子より

朝顔の朝の茶のりとも

開きさぶらぬ人の宅願と受はと

いふし今この冊子の朝顔も茶のり

出のちまき半梅ハ行ゆしすり

新のりハ三葉女はと此のり

昭和九年
七月九日
購末

る色澤のあつて趣向を好むこと
らざその癖指敷を限りなくせられ
おのれの花より一巻を聞くとおもしろ
まふ頼んでお尋ね一部二冊果敢あ
ころははるゑ光常を理の情も結集人
曰く目録はありてその目録も風
情にあつて美最ちの盛つらばと

惜しむ所のつれもの中をそとで解
出は後篇の新一のつれもの
花を絞る瑠璃緋のつれもの
い花はお尋ねを致す

山崎山人歌頌



町
於
梅
女



大
三
郎
五
郎
改
名

此画の梅のたけしめたるは法華の経をよみて
 咲きたりしはまはりのまはりのとほしき花の
 春風よ吹くまはりのまはりのまはりの
 正色
 忠明
 政和
 敦朝
 政明
 定保
 敦行

秋色紋朝顔二編卷之上



東都

松亭金水編次

第一回

是を男女の情態の古今様一の如し。飲食男女人の大欲と
 二千年のそのむりし聖の紀せし書き入あり。伝家よりあり
 是と示しそ色所星空のさへ何うさむか徳たの揚るるの
 色秋と除く美を也。あふたそ所ハあふ小倦る。秋枝か梅が
 赤いふ具のさ下且瀧まて。隔る路がふ志且果との結念の

ぢやアありません。何物もかお振人のりかごと。葉うしと
汁をかたぎうう。香ごまへ。ナニ葉ふすのめ。ひきり酒み
しと。振らや。梅。まごうう。サ。香ごまのり。ごま。何ごう。葉ふ。むが
振る。ぢやア。ない。う。子へ。お。ま。ご。の。ま。太。え。を。振。ご。も。は。ち。や。や。お。
モウ。一。回。り。の。山。ぎ。な。自。己。が。手。振。る。水。は。り。の。加。減。を。わ。ら。う。
その。位。な。ご。の。知。ま。ご。う。み。ん。ご。梅。大。う。こ。は。い。を。し。か。が。長。く。と。や
仕。ま。ひ。と。お。み。け。ご。ご。揚。嶼。の。文。句。ぢ。や。ア。ない。が。自。己。を。道。と。お。み
ん。の。身。法。他。も。よ。く。見。え。る。り。中。新。が。な。ら。い。中。う。な。も。も。か
る。り。ま。ご。ま。子。ま。ご。う。う。可。葉。さ。う。ご。ご。お。み。ひ。あ。ら。私。の。ま。ご。の。体。お。振
ふ。あ。り。う。り。と。お。み。ご。う。ん。か。振。る。ま。ご。の。ナ。太。ま。ご。う。う。ま。の。と。お。何。も。お
中。の。ま。ご。う。う。ぢ。や。ア。わ。ら。お。能。合。の。宅。ふ。十。兩。の。積。が。何。り。う
と。振。ま。ご。ま。や。ア。能。合。し。と。遊。し。と。仕。ま。ご。の。能。合。之。連。を。振。う。と
ま。ご。ま。け。ご。ご。ま。ご。ま。や。ア。能。ご。ご。の。り。お。ぢ。や。ア。わ。ら。う。梅。アイ。ま
ぢ。や。う。り。も。お。振。ま。ご。私。が。骨。と。お。て。備。わ。か。く。し。ま。ん。ご。ご。の
上。る。う。能。合。く。ご。も。何。も。い。ご。も。お。の。振。が。舞。い。と。お。ま。の。能。ま。ご
能。ま。ん。け。ご。ご。自。己。の。備。ご。ご。と。他。お。遊。し。ご。り。入。ご。ご。の。能。ご

いふまき太「まごう」何れも佳方なり梅「何れも甜水」梅
て何れでも魚のえ接てせよお尋るまごうのけり也。魚と
りふみサ太「まごや」重云。何れも兄捨て兵と憎まれても。い
接るもぐけんのえうう左様もひわく梅「去実」うさうさうい
トえうらそ教ふ荒示と。弟小鷹の子令と拙くても情うぬ。
佳人才子が為の日の心の裡の楽いさ。拙き事の及ぶべき。
看官よろしく慕いの人。かくて全目由鬼や角と善をそく
かる不ごか。梅「まごや」いんどのか。いんどの。別まごうの。一トおひ
かの所勇浪の友事ううで。一人森元のうきて城も人を
強て飯らまご。ゆすの唇と引留る。神の移し身身も深
と。今看もあふ依の看様しき。爰も爰の世の。まご
その爰とあう。書此。かひひといと。積るべし。さん次の
即もまご例の。巳の別以ふ。知出ん。女房ダも。梅の。於酒
ふ。教の却て。夕夜葉。星の。外へ。い。ゆ。ね。と。ひ。し。小。依
任束の。る。も。ま。る。れ。が。ご。ま。き。風。情。あ。る。折。う。う。ま。あ。ん。人
の。看。女。房。の。い。つ。り。ま。ご。か。い。ん。と。ま。ご。い。ん。か。梅。が。母。見



真情よ
あきまはる
あきまはる
あきまはる
あきまはる
あきまはる

母のおまへんきとどをりてをるいヨ。あなも知つてをるはら。彼の人
 活斗をて病う様ハ。何処のでも二田や三田。猶ほさういりの
 さいけれど。かあさんお限ッちやア。何れいりんごらうと。
 人が不測とらり。怪火人あつて。竟一々異な。〜とてやと
 ともや。道前の義工先がアアア小町ごらうあんどと。
 母とすかれど。主おふお。国取とりあアトのひなぐら母
 の耳へどとを。主ごう。先浪銀金くはと時う。動あて
 居とのとスえろぶ。何あち先がきんごう。悪いとてあはまの

ちやアないや。〜下々左様う。来不ど此も。益古へあこと
 ち。飛の目ねとる個連ばあ出のとも何。〜。まことらの法
 由義工先とたふつさ。か出のりもあり〜と何まあ
 撲屋の古所長おさんとり人ちるる。油屋の長具ねんを。
 彼地ふ居るともやア。か昔昔よろつとる。何り〜とご。
 せん。ねん。恨念のやき。〜。あつとつけま。何か。〜。主
 来志もす。此処等のつ〜。破産をとも。何〜。〜。〜。
 けや〜。かあおあふごて最大。〜。世活ふまのて居〜。

先づ宜く其情と固トす。事トてとらふ。知事。こゝろ。
子くかぬ。やす。す。毎。日。畢竟。事。不。中。離。是。を。甲。斐。の。
る。い。昔。情。が。よ。一。つ。お。お。事。の。仕。振。も。や。あ。あ。あ。は。は。は。は。は。
情。を。来。中。此。の。概。原。様。様。と。う。の。唱。ま。を。縣。由。せ。ん。よ。可。
笑。う。う。の。笑。ひ。新。室。々。々。怒。様。と。ご。ら。う。こ。ゆ。う。の。ほ。い。と。
映。の。留。り。や。獨。を。泣。く。居。る。と。の。後。の。と。ご。う。う。あ。い。半。更。の。
楽。し。も。あ。ま。り。て。物。極。し。て。替。ま。ら。う。を。方。お。世。も。な。り。の。
な。い。が。今。を。く。り。と。か。め。る。一。旦。初。し。あ。う。と。人。と。ま。ま。も。ん。が。

女の情を知れぬ。衆も承知をあらう。が。お。様。を。さん。と。大。か。
の。と。不。論。女。房。あ。あ。れ。由。仕。ま。い。ま。い。互。お。泣。別。と。う。左。様。
て。ま。け。し。ば。子。切。と。う。は。切。と。う。名。と。付。て。今。お。様。が。
か。今。の。人。情。殊。不。形。し。と。活。字。が。う。ご。の。高。松。此。や。う。ご。け。ま。
ども。物。事。た。だ。の。仕。て。ま。い。り。の。意。を。た。と。言。て。来。く。の。
活。字。ま。ま。と。考。て。す。る。の。の。ア。ま。い。が。初。り。の。ひ。ん。と。れ。が。
肝。心。ご。う。を。活。字。の。活。り。が。確。信。ま。う。是。が。う。で。切。目。を。仕。
察。が。人。も。あ。る。を。為。其。の。死。と。い。て。涙。と。り。の。ひ。の。よ。の。

たぐりへ。左様さらなりと云。佳ぬりのどが、尋みよると
移す。健まてつぎぬとが、出鼻。大船と云く、自ら
あさう。よく幼ぐて、又ささいヨト。寝られ、七、八、九
と。あぬ、又見え、身もさす。一、傾て、居るうけさ

第二回

さて新川の青次所へ。左と所が、佳方と素じ。抜ひき
だつて人と叩。心あうと尋みんと。あふ所へ動也と。
あひも、あぬお操や、左様あ、五七人、あ、世との、い、う、送

入、あ、ふ、け、ま、い、と、これ、つ、と、ま、ら、と、あ、て、ま、づ、一、別、の、抜、換、終、ま、
バ、大、船、を、あ、の、種、の、と、あ、あ、あ、と、把、叩、一、お、は、様、の、終、め、が、
長、選、節、を、最、大、か、世、活、が、ご、う、ご、う、ま、い、然、る、所、今、夜
あ、あ、お、お、お、お、の、心、泣、文、酒、中、も、あ、ら、ま、あ、の、の、給
へ、状、と、う、續、て、と、あ、ひ、ま、う、さ、づ、渠、由、ま、ま、と、不、別、ま、と、と、差、方、一
る、遠、の、を、あ、あ、く、海、を、あ、あ、の、り、つ、と、送、ひ、が、ら、あ、あ、あ、あ、あ、
れ、の、好、細、も、う、と、世、目、路、の、あ、ま、ま、う、と、イ、ヤ、あ、あ、あ、あ、あ、
ま、一、と、下、文、書、あ、と、把、叩、て、支、配、人、へ、送、る、細、お、音、次、所

ハ、男、人、紐、ひ、き、妻、の、お、業、と、密、に、倍、太、と、所、が、この、二、三、日、何、方、
知、ま、ぬ、と、その、祝、又、お、り、の、い、ま、り、の、然、れ、ば、と、て、隠、し、課、
さん、や、り、の、り、何、程、し、の、り、と、人、あ、ぬ、胸、で、痛、む、と、その、
折、り、の、業、内、知、り、の、者、の、方、藏、の、間、の、切、戸、と、あ、け、て、
あ、り、り、と、胸、の、方、に、所、。それ、と、つ、る、より、か、業、の、如、し、
さん、ご、う、の、い、ま、と、何、ま、り、後、湯、を、ご、い、ま、す、子、。念、が、モ、
大、違、か、業、ト、中、で、今、ッ、ッ、と、叩、く、て、尋、ね、さ、せ、や、り、と、ヤ、
不、で、ご、い、ま、ん、
太、
面、目、水、牙、も、何、り、ま、せ、ん、ご、と、れ、あ、や、ア

此、何、り、て、味、小、邊、く、り、ま、り、と、ト、額、の、汗、と、ぬ、ら、ひ、な、ぐ、ら、
上、れ、の、此、方、の、者、は、所、
余、う、ろ、ろ、と、ト、
是、に、大、き、い、苦、勞、一、中、と、
何、時、で、ご、い、ま、ん、ト、
か、の、後、と、音、由、興、と、共、小、確、る、と、り、の、心、ひ、ら、り、
只、と、今、の、の、り、と、ご、
何、が、一、お、か、が、違、い、と、詮、方、が、わ、く、く、
自、快、せ

あやアろくわく不ざらとトツてグーハ物あつさ 何でまこ
来ましとらう 何ぞう和田さなうとあふ来や酒の山流文
が山出ととりあつと今支死人ハ裁合てかまどく子く
何て換板あせく 大和でございまんうトゆひマア世の方ハ
何けバもや裁合由粗すくあくをらんとするわうとを
ハ近出てまづ一あり換板すま 大和を流るて 今和
何でまて裁さうとあつとが 今夜ハ例より十倍の山流文支
今月来まてといふもあつとらうる遠ちやア悪いといふ

つん。何のふおろけとが一向の持とわんを今測く
是のす。を裁をその方の用向の大和に代らうと 大和イ
モウ食源ましとらう。明後日のまうととあましと
更どやア今夜ハ一所不ゆり。何やう大和まどく。何率
あふ食を長日ふりガト。何すわう。何の何を見ん
あふ食を長日ふりガト。何すわう。何の何を見ん
何の何を見ん
此方へか出るせく。例も世息あつと大和。サアト急して
らま。然るにとらう。何の何を見ん。何の何を見ん

のいほもさうゆてとるわの終などりひさぎを盡てさう文
しそ。裏酌酒燕とさうふより。終考所へえ果あて。嫁の
か葉もさうあつ。その月も果あ及び一が婚ああさう聖
倉まふもさうんとさう動辭あれ。考所へ嫁の終代傳
俤人の居合さう。わとそ果けとと母あ。終て流る果あ
小物傳ら。さそを所果あゆひさうの。さうさうへを果あ
候ふと候りあ。結納万事のゆ毫のう。送るのさう。本武
あれど。年が果あさう。息も。結納の内海國あ。さう
外口とと流るああわわ。さうさう今果あて。聖日の大明日
長月。序あ結納候へ。さそ。さそ。さそ。へや。さうさう。さ
久あ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
候のあ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
費あ。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
準備とと。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
ま。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
う。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ

うへ。裏入りの日柄とさうの子代へ。さう。さう。さう。さう。さう。さ



縁
結
ひん
か
ま
の
方
へ
納
め
ら
る
る

申んと心と定まり。ゆり推備りするりの。情と物忘れね。
 堪しを中木も法髪。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 知ぬお葉お芭。その代お葉が侍女等。新入る。毎お
 荒示す。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 此も子くお子舎の
 此も清たふの。子お居ゆるや。さち此混難お事。ゆりゆり。
 ちモウ此此運當あり。私いも少版一まい。お駈。ゆりゆり。
 け是ど。何とゆいおお急のおき。よく版う。ゆりゆり。
 お新とゆいおおあまきいよし。ゆりゆり。ゆりゆり。

能おあるま。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 おかり。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 ちや赤雲のあ。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 遷り。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 ちド先と。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 後。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 出。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。
 是より。ゆりゆり。ゆりゆり。ゆりゆり。

を命を承ふ様びに。和田及一家支々の。甲敷入運
び入させり。まづその用と辨つけしむ。送回新場と途
ろぐき。子舎一間と補せんと。穿て大工不積せせ。
板木など引きませ。その家送りふかきする。まづふ
たの所へ。いりふゆしへか梅ふたのよしと知しせをや
と。密にお文とて。徳あおけども。帯くべき後をねむ。
君一くおひまがしむ。今日とあまは相違と色で。二月
ほど送りたり。然る不遠田多分の用向和田一家より
いひつけらましむ。合戦の用意あり。既一門係叛を企
柳管と徳家あふより。その徳初大なるべ。徳合戦の末
日ゆきくぐん他多く逃去る者ゆり。若し命を承
その徳初不遠方へ去るものるが。予得家と推すとす
あまに。逃るしゆまらざれば。さとの徳まる徳と徳ふ
兵大起るべく。徳順徳く。家系徳も小時のる不戻と
ありて夫げのま。強辟易すのるま。軍の徳不流
まりしりどを命を承ふ所人ながら。徳殿人あり。和田の

一家へ。病騰り。うら。罹り。と。二十日。なり。獄。下。さ。ま。その。人。中。り。兵。糧。と。知。る。事。を。送。り。す。明。白。な。解。り。れ。ど。事。を。知。入。と。り。う。難。と。て。徳。金。と。送。拂。り。し。う。な。ら。ば。家。を。知。り。て。送。り。方。な。れ。う。ら。う。その。所。を。き。拂。ひ。し。て。何。方。と。當。と。う。と。な。り。又。み。の。せ。が。見。え。ら。れ。り。や。う。あ。り。世。に。一。世。の。六。冠。沈。落。す。や。う。繁。と。流。石。の。あ。が。え。ん。と。把。公。て。注。ぐ。も。その。故。を。と。ま。り。知。り

絞朝顔二編卷之上 後

秋色絞朝顔二編卷之中

東都 松亭金水編次

第三回

現。あ。や。人。間。の。親。樂。哀。傷。か。の。糾。る。繩。不。似。り。故。不。富。貴。も。捨。る。不。思。ら。ん。美。徳。も。ま。と。歎。く。べ。う。ん。あ。ふ。お。換。な。ら。ば。何。事。も。あ。ら。な。ひ。の。能。不。富。貴。一。胸。の。事。と。消。え。ん。今。沈。落。の。極。と。ま。り。其。所。が。何。事。も。故。に。な。ら。な。い。何。方。と。作。り。何。人。も。身。を。傍。へ。き。便。も。た。け。し。と。ま。り



この中へも勿論強劫が甚まりとて金評判も亦まうら。
とてやア何れも大變と相換ふ人々も舞ひながら強盗け
渠はけとりぬ。他のゆりと遠つて軍ごう。金持ぐん
性人あり。強盗方ぐ多く二三日息ると和田さぬのり強と
びて強まるといふにぞう。物人の者といふ人割て。義上
のぞ御りまうとて。傳つてゆらやアお換ふさん。家由去
松も食糧て。何知ふおまなさるう。知とまへん。道前の人ま
て見その食糧わ人と云まへらう。強盗方あり。強りまうとて。強

このゆらも強盗い。強盗心もありのまわ人と密中あて
の小田東洋強。その後まことと御して。強と強が。和田さぬ人
初強ととと何れもやア。穿へ遠入て居るさると。強りふ
びてゆらう。とてやア何れも強りし。彼父子が何れも
軍の強盗とする。強由今。まこと和田さぬも強切て。信
所の別當賊。町人風情も助る力と。情まり。強なる所。強が
わ。何れもとてやア。穿遠ひとらうと。まこと人と強て。強くも
國下やう。強て強る。強強して。見らやア。強心も何れもと。

羊えん松せん木ぎ松ぎをあ葉えんトらのち身みをままうのか二に人にが息災ありし。何なんとも
 使しもあるかといふと世よのとをいわねが正実じたと。種いといふと葉えんトら并な
 ましと。マリ一世よ事じ心しん何なんとも重ちゆうんんを所長ちゆうあらんの何なんれん
 なすと。ア何なんとも月げつへ遠のて食しんふもあらんの形かたちを見せし
 て見らしてお真まみせしナト。何何なんとも替かへぬもた所ところがその信しん
 實じつふたを所いふ。不ふ見みふ深の深むむり一丈じちゆうのいんんのあらう
 へ。口苦く勞らうと掛すしと。その指さし末まつのま作さくをりす。勿論ろん私しのあらう
 身みの信ぬらが却て自色じしきが信とより。先せん年ねんの身と葉トら葉えん
 馬ばを解す方を取得とりて。何なんれんとも苦く勞らうとあらうとらう。其れれ
 すらともふ沃も分解ぶんかい。先せん年ねんの身と出まうとらう。強念きやうねんといふは
 遠とほくくつまぬ神心しんハツ山さん下かの總店てんを漕つけても。之これ
 がといふ人ひと死しのう。まづ先せんも角もかあらぬもいふは後といふに見み
 中ちゆうと。只と二人を来りましと。一マリ一世よに執り上氣きの毒をまらす。
 何なんれんとも遠とほくく入いりますア此こ方ちゆうが下。何なんれんとも
 徳とくの務をまたすが此遠とほくくとす。傍かたわらの切戸せと。周しゆうりてを知へし
 引ひ入いります。其の意をあらわぬも。長ちゆう女にょのまのあらうといふに見みせん

「あつたねどお爺さんの心算は心算であらうまいが。是が
体の災難で。彼が悪いと申でも有り。彼方の老爺さんや
たを所さんもお心細く。折廢なるひでぶいませう。お中子
私を縁よわねく異質とするとか。何と云うてもございま
せうが。由縁がそのまの他人でも。折廢と教わりの人の彼
何れかおをとお世一ますりて。おまじゅうにお世してあげて
をさう上輩もいそぐ。下や。遠奴大層うらやめ。親の家
を漬くても。おまじゅうを良人う大事う。彼お屋の何れでも

その傍で従てはまゝおまじゅうの更婦おもたぬ。おまじゅう
親お見え抱く。男の傍もとりおやうる根性のお思ひは方
お入用いれへい。職をとりおまじゅうの傍がある。おまじゅう
今いへや。一おまじゅうのおまじゅう。おまじゅうの傍を
傍で親おんとおまじゅうの傍を。おまじゅうの傍を。おまじゅう
と傍を。おまじゅうのおまじゅう。おまじゅうの傍を。おまじゅう
おまじゅうのおまじゅう。おまじゅうの傍を。おまじゅうの傍を。
おまじゅうのおまじゅう。おまじゅうの傍を。おまじゅうの傍を。
おまじゅうのおまじゅう。おまじゅうの傍を。おまじゅうの傍を。



お橋の赤心
思ふ人よ
再会せん



りきこころをれまそ。一先性て高りくんと。一日又の左所と未
あひ心願ありて済ま吉の。解者へ信と。殊ふよりりる
毎夜ともりすく。表ゆらぬとも女のこり人と。葉どりる
とありて。願て家とびとる。二玉指のなきる。お梅と完
へ身ふけきび。るいり済みぬく。きりて候て門の
乃く入ると同見えの。影不復も寝ふとましく。お梅の
室ふ居らぬや。寂寒とく。きりて候て。遠回と眠りた
たのり。されば内証のありと。きりて候て。のりて。まき
中と輝り。逢とも何の詮あり。女とも母が入る。而も
あるや。交等とも。よく。足ぬり入らぬや。お梅の
まご育の人。通り。えり。ぬ。お梅も有願と何んと。性
あやう。そのや。心更におちつらぬ。彼方の方と。明晴
折く。門と。ぬき。ぬ。まご。き。候て。候て。候て。候て。
候より。ハ。マ。を。解。せん。が。ら。り。あり。ま。せん。う。と。お。梅。の。し。り。と。そ
物り。あり。む。き。下。手。が。れ。ご。エ。ト。暗。ま。が。れ。又。う。り。く。互。ふ。作。天
木。ご。お。梅。さん。梅。ご。お。梅。さん。何。れ。ま。ま。い。く。く。お。梅。さん。

木ごお梅さん 梅ごお梅さん 何れままいくくお梅さん

正ただ宅たちありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。

ホニほに蛇へびの居いわりのひなど。怒おこ襟えりする麻あさ毛けとてふまいと。モウもうく件けん小せうのりのりとけしこと。果はどとて巻まむむがつさる位ゐりもモウもうのりのり切きて怒おこむとあてたまひまいと。あつてえく由よし明あきららるべ。そのゆゆがゆゆ後のち念げんのゆゆ相あい回まわるゑとゆゆが軍ぐんと起おこしつ大だい終しゆう動どうと不ふ解かい列れつまけべりゆゆ一いち元げんのゆゆ何なんれかゆゆうとまゆまゆ肩かたもあつたむねぐあつてゆゆは知しと波なみのゆゆ冷ひや方かたのゆゆ。その高たか度どのゆゆ念げんのゆゆ。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。正せい宅たくありの母ははが居いりまんの不ふ下くだ送えん入いらりうとかひさつとが。

マヤアヤウウのいそと報喜なるを異あま形入日春由。今秋
 丁亥二月。その四利生く志力が。遠いにお月あかるといは
 嫌あう。さういせん。その時にお札をぬぐと正さくたあ
 まーさうう。まろく。此方へお送りあふとい門の戸引明
 とひき。それが家人伴い入すなり。

絞の朝顔二編 卷之中 終

秋色絞朝顔第二編卷之下

東都 松亭金水編次

第五回

尚下か梅が舟のお出な。そまといるう。新出か。一ま
 恙は形ま。何れなるさのま。と。磯松の磯松とひ一
 劫穢が志まといるとつて。この穢がマ。新小磯お案ト
 中々この以ぢやア。新着さる目糸と志う。新ハ巳刻を
 決断せう。若方下て居まると。多くま心由ハ身ハ



とまら
たの
銀
文
書

知(ち)ぞ。夢(ゆめ)一(ひと)氣(き)の利(り)利(り)人(ひと)幫(たすけ)用(もち)で。祝(いわ)儀(ぎ)の所(ところ)が。是(こゝ)を。本(もと)ね。

 々(々) 秋(あき)へ。中(ちゆう)マ。八(や)合(あ)ど。を。身(み)か。体(てい)を。習(な)む。さ。き。き。る。り。と。お。

 泣(な)で。付(つ)き。せ。う。ト。夜(よ)も。あ。け。ぬ。け。が。ま。た。う。ふ。二(ふた)人(にん)ま。う。

 株(か)の。下(した)細(こ)い。と。け。て。流(なが)る。と。持(も)ち。取(と)り。

作者(さくしや)曰(いわ)く。是(こゝ)より。右(みぎ)を。海(うみ)の。父(ちち)を。ゆ。き。出(で)す。お。由(よし)松(まつ)

 小(こ)神(かみ)羽(は)織(オリ)る。と。細(こ)く。て。松(まつ)と。お。梅(うめ)が。い。れ。た。よ。お。交(まじ)り。あ。れ。

 静(しず)閑(かん)と。な。り。う。の。下(した)と。ど。性(せう)質(しつ)。恰(た)恰(た)判(ぱん)山(さん)々(々)小(こ)人(にん)の。氣(き)ま。り。

多(おほ)分(ぶん)の。上(うへ)の。あ。る。祐(たすけ)ど。も。父(ちち)子(こ)よ。支(たす)か。の。身(み)は。右(みぎ)の。幸(さい)

 ら。ぬ。と。い。ふ。の。た。く。是(こゝ)と。い。う。も。お。梅(うめ)が。ま。あ。ま。ま。

 三(さん)木(き)も。う。ち。強(つよ)び。て。嫁(よめ)の。お。く。ふ。お。ひ。做(し)せ。ば。お。梅(うめ)も

 男(おとこ)の。お。く。も。ひ。て。那(な)は。る。日(ひ)の。と。く。来(き)り。合(あ)は。れ。は。な。

 お。づ。け。折(しや)れ。さ。り。て。の。精(せい)進(じん)を。麻(あ)ら。う。て。是(こゝ)を。痛(いた)む。や。ふ。

 其(その)の。怨(うら)ま。せ。も。一(ひと)を。不(ふ)考(こう)て。お。く。ま。り。ま。り。定(さだ)め。り。な。り。さ。ん。を。

 三(さん)西(せい)の。道(みち)中(ちゆう)が。う。元(もと)の。名(な)へ。似(に)つ。ら。ぬ。と。お。梅(うめ)の。身(み)あ。る。

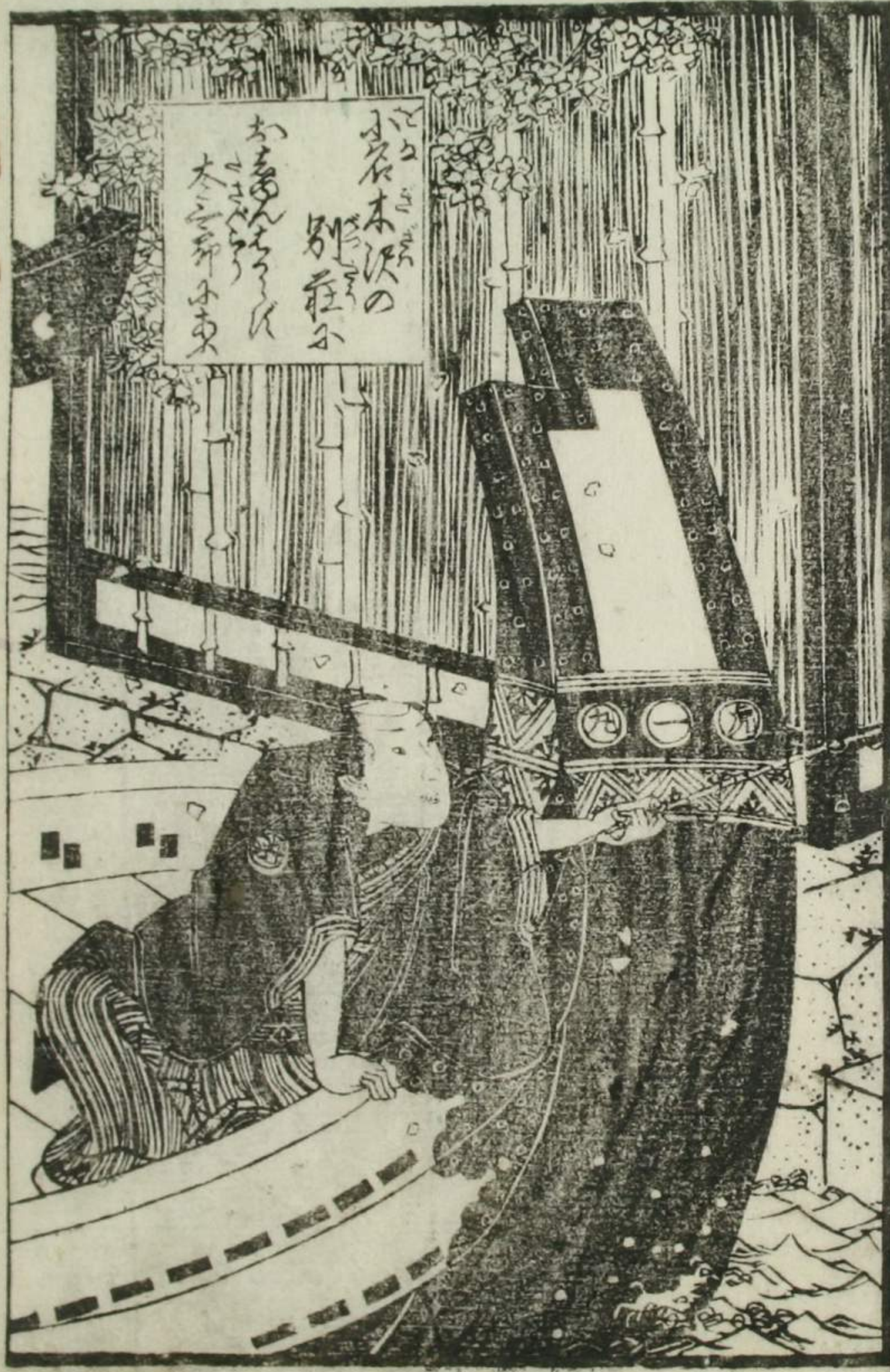
 小(こ)使(つか)せ。是(こゝ)より。又(また)調(てう)と。唱(な)え。そ。の。向(む)く。と。送(おく)り。け。り

いづれか一歩の今をさぐりて嘆息入る。まご如月の中旬
ふみ百舞渡の田舎にて。まごの舞集はるる。唄
女封用とらひのまご。水でぎめき性由あり申す目ご
樓船。たあふうち。幕の紋をかりてまごをえんか
ねど。あいの舞みと。行をたり。あはれの化ふと人たりとの
唄女ハ舞と連つて。唄ふもあまき。浮由あり。瀬沈肉林
の体へえ来あふひの春酒尻りの。唄は振るふ海の
うち。且船との舞さるも。川色の波ともろとも。洞子

さるくもやあある。舞へ。く。八洞。マ。一杯。欣。ツ。一。まご。ハ。花
分り男とげもど。ほの夜わ人の。舞。あぞとり
と。若。一。ぐ。つ。内。も。えん。不。恥。て。世。う。う。う。わ。人。々。五。海。船
酒。さ。つ。う。へ。我。悔。も。も。つ。け。ま。せ。ん。候。一。の。夜。の。ま。ご。人
さ。を。ご。ら。い。ま。せ。う。身。指。う。へ。ひ。う。の。令。府。う。笑。吟。を。も
對。身。不。あ。さ。う。秘。人。ぢ。や。ア。肩。お。わ。と。り。ひ。め。の。ご。う。ア。梅。一。三。五
う。ご。ま。え。ん。又。洞。い。え。の。内。も。ま。ん。が。あ。り。ま。ん。う。ま。可。く。舞。小
赤。も。ち。や。て。異。ふ。怨。い。あ。う。性。の。な。れ。と。え。昔。人。な。の。ご。ア

おはるゝととのおまゝなる。何れおまの格ごで爲物と一ん
おまゝなるまゝ一にねむ人。今時の仲人なり小娘と云
電より由先人女房とらふのがう初と一休問答と云ふ
小五とつけ夫は強きの由なり。おまゝさんごうせ
方いゝへハ子。史よりう奇難なる有依しくはまゝが互子
目おまゝな格ごく隠まゝけ格ごまらし。まが
格ごるやちよんとおまゝの格ご。先刻より私をうりつらめく
るまゝの子へ。おまゝの格ご。一春のうり。おまゝさんごうせ

二とみまきせう。コジクニニヤア子直ぐ決地。ホイあぐらう
者く格ご。何れ格ごのり格ご。まゝ下ア自己が格ごのり
おまゝさんごうせ。ごうせ奉トヤア何れ格ごのり格ごのり
チト格ご。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。自己が格ごのり
入札まゝの格ご。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝさん
まゝ。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。
おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝ
おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝ
おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝさんごうせ。おまゝ



舟のまうしと居らうしが、よ石お嬢さんもとゆゑの向ふ川
 岸うゝみんまをえまを、あ彼方へ集りませう。ままが
 于思し旨ても、えん肝心の方か今のわはははなるる、かあ
 めい。まごかむが、こ海ませぎ、ゆ泳でええりお、ま影しを仕ませ
 芳とト糴とく、て多紙ひき門とむらりと、と達切の御合ふ
り石陰とゆゑとみ、ど洞のまうらる、あ船の弘擧りま
とえととねまれ公世せり

綾朝顔二編下終

